

創立65周年記念

アンネのバラと 高井戸中学校のあゆみ



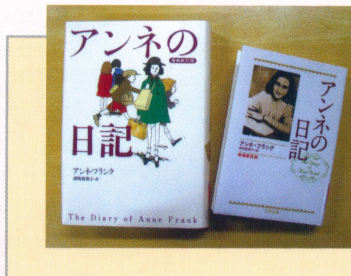
杉並区立高井戸中学校

○ あまりにも有名な少女「アンネ・フランク」○

後生に伝える価値のある記録物として「ユネスコ世界記憶文化遺産」にも選定された、「アンネの日記」。この日記を書いた、世界で最も有名な15歳の少女の短い生涯は、どんなものだったのでしょうか。

〈少女のおたち〉

アンネ・フランクは1929年、ドイツのフランクフルトで生まれる。ナチス・ドイツによるユダヤ人迫害から逃れるため、1934年にオランダのアムステルダムに一家で移住。その隠れ家で2年あまり、一家で息をひそめて暮らした。しかしドイツ秘密警察・ゲシュタポの知るところとなり、アンネ一家はアウシュビッツ強制収容所に送られてしまう。その後、別の収容所に送られたアンネは、姉マルゴが病死した数日後に、姉と同じ病気により15年という短い人生を終えることとなった。



現在出版されている「アンネの日記」。当初は父・オットー氏により、あまりに個人的な内容は省かれたが、のちにそれも入れることに。1947年にオランダで刊行されると、たちまち重版となった。



〈アンネ亡きあと〉

隠れ家でアンネが綴った日記は、強制連行される際、父・オットー氏の部下、ミーブの手により保管されていた。それを、アンネの死後オットー氏が「アンネの日記」として出版。現在に至るまで約70ヶ国語に翻訳され、世界中でベストセラーを記録している。

オットー氏は、隠れ家を守るために「アンネ・フランク財団」を設立したり、アンネのバラを世界中に広める活動を展開。1980年に亡くなるまで、アンネの平和への思いを広めることに力を尽くし続けた。

○ バラに込められた平和への願い ○

平和の象徴である「アンネのバラ」は、本校の校門から昇降口にかけて、年2回咲き乱れています。アンネと深く関わりのあるバラが、なぜドイツから遠く離れた本校にあるのでしょうか。

〈アンネのバラの誕生〉

アムステルダムのお隠れ家の裏庭には、アンネが眺めていたとみられる野バラが咲いていた。これを、1960年代、ベルギーの園芸家・デフォルゲがアンネをしのいで品種改良を行い、「アンネの形見のバラ」（正式名称：Souvenir de Annefrank.f）と命名、オットー氏に贈られた。四季咲きのバラで、つぼみは深紅、開花するとオレンジから黄色、ピンクへと色を変えるのが特徴。春と秋に直径15cmほどの大輪の花を咲かせる。



まさにアンネのように、くると表情を変えるバラ。平和を願って作り出されたこのバラは大変貴重である。ヨーロッパでは数が減っているとされる。

〈本校にやってきた平和のバラ〉

1975年、当時の中学校2年生が国語の授業で「アンネの日記」を学習後、小林桂三郎教諭の指導で「アンネ・フランクに寄せる手紙編集委員会」を発足、アンネへの手紙を文集にした。

「暗い炎の後に」（1975年）「アンネのバラよ いつまでも」（1978年）の文集を、オットー氏やアンネ・フランク財団に送付、交流がスタートした。この活動のなかで、アンネの形見のバラがあることを知った生徒たちが、「ぜひ平和のシンボルとして校庭に植えたい」と申し出たところ、オットー氏は「生前のアンネと同じ年頃の子どもたちが望んでいるなら」と快諾。スイスのパーゼル市の自宅で育てていたバラを送っていただくことに。すぐに校庭に植えるのでは枯れる恐れもあると、いったん立川市の都立農業試験場に託し、2ヶ月半後に校庭に移植された。こうして1976年6月に3株のバラが本校に届いた。すでに高校生となっていた当時の編集委員らが母校に集い、大切に植えられた。

○ こんな活動もしています ○

アンネのバラ委員会は、水やりや肥料を入れたりなどのバラの世話もしますが、同時にバラの公開や新聞の発行などを通して「平和のシンボル」であることを伝えていきます。

みなさんにできるだけアンネのバラについて知ってもらえるよう、頑張っています。

平成24年度 アンネのバラ委員会
委員長 鈴木千学

〈春・秋の一般公開〉



本校のバラをぜひ一般の方々にも見ていただきたいと、5月と10月にそれぞれ1週間ほど、一般公開を行っている。毎回とても好評で、地域の方々だけでなく遠方から見学に来られる方々で賑わいを見せる。隣接する高井戸図書館では、この時期に合わせてアンネ・フランクやバラの特集を組み、本や資料などを展示。バラやその背景について、さらに知識を深めることができる。



定期的に発行しているバラ新聞。生徒たちの手によってイラストも加えられ、楽しい読み物となっている。

〈アンネの追憶 先行上映を実施〉



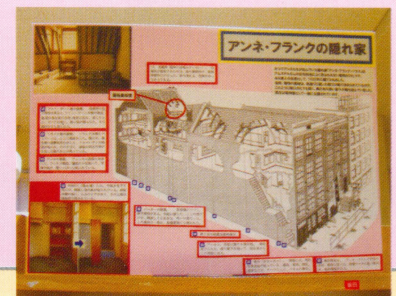
2012年4月に公開された映画「アンネの追憶」。その先行上映会を、同年3月2日、中学校3年生を対象に本校の多目的ホールにて行った。「アンネの日記」では書かれなかった、強制収容所に送られたのちのアンネは、どんな過酷な運命をたどったのか。父、オットー氏が回想する形で描かれたこの作品に、多くの生徒が衝撃を覚え、涙した。当時のアンネと同じ年齢だった本校の生徒は、何を感じたのか。上映後に寄せられた声から、いくつかを紹介したい。

☆中学校3年生が感じたアンネの世界☆

- ・「私たちが普通と思っていることが、アンネにとってはありえないくらいに嬉しいことだったなんて。もっと自分の周りに感謝しなければならなかった。本当の強さは、どんな時も前向きで笑顔を絶やさないことだと感じた」(女子)
- ・「自分たちが本当に平和に暮らしていることを改めて実感した。世界でも、まだ捕虜になり苦しんでいる人々がいることが信じられないほどだ」(男子)
- ・「自分がどれだけ幸せなのか分かり、もっと一生懸命生きたいと思った」(女子)

〈学校図書館で会えるアンネ〉

本校2階の学校図書館にも「アンネコーナー」を常設展示中。彼女の生い立ちがわかる資料や、アンネのバラにまつわる書籍などを置き、いつでも生徒が手に取れるような環境作りをしている。年に2回の一般公開時には、コーナーを拡大し、高井戸図書館と連携して関連書籍を共同で展示。今後は、生徒が常にアンネや平和に関心を持てるよう、学級文庫にも関連した本を配置するよう計画を進めている。



常設展示している「アンネコーナー」。「アンネの日記」をはじめ、絵本や写真資料、漫画など、アンネに関わる書籍や資料はすべてここに。隠れ家内部のパネルも拡大して展示中。

監修 掛谷朱美 (高井戸中学校 学校司書)
協力 高井戸中学校 アンネのバラ・サポーターズ
株式会社 ゴー・シネマ
発行 杉並区立高井戸中学校
平成25年3月1日
(掲載した写真・文章の無断転載はお断りいたします)

参考文献 「アンネのバラよいつまでも」 (小学館)
「ビジュアル版伝記シリーズ アンネ・フランク」 (BL出版)
「この人を見よ！歴史をつくった人びと伝7 アンネ・フランク」 (ポプラ社)

○ 株分けした全国の学校 ○

- ・ 杉並区立富士見丘中学校
- ・ 杉並区立泉南中学校
- ・ 杉並区立東原中学校
- ・ 長野県飯田市立飯田東中学校
- ・ 都立杉並総合高校
- ・ 北九州市九州国際大学附属中学校

この他にも、全国各地の公立私立小中学校などに株分けを行っている。

アンネのバラが高井戸中学校に咲いていることを知らせる、当時の写真(右・東京新聞、左・朝日新聞)。この他にも各社で報道され、大きな話題になった。現在も毎年バラの開花時期には、「広報すぎなみ」や新聞各紙に取り上げられ紹介されている。

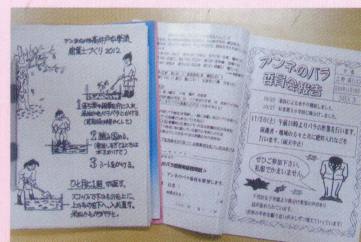


○ 高井戸中が守り伝える「アンネのバラ」○

平和の願いが託されたバラを枯らすことがないように、生徒や地域が一丸となってバラを守っています。現在に至るまでの活動の歩みや、今どのような取り組みをしているのかを紹介します。

〈 アンネのバラ委員会の発足 〉

有志の教職員や保護者の手によって、バラの世話をする日々が続いた。その株数は順調に増え、校門から昇降口までの両側を埋めるほどに。これを生徒たちの手で守り伝えていきたいという声が上がリ、2004年に生徒による「アンネのバラ委員会」が発足。希望者12名からのスタートで、地域、保護者、教職員たちに支えられながら、バラの育成を生徒自らが行うこととなった。



2004年の活動開始からの活動記録を1冊にまとめたもの。当時のメンバーが取り組んだ活動内容ははじめ、生徒に配られた委員会報告書、高井戸中学校流のバラの管理方法などをつづっている。



校門を入ると、両側に見事に咲き誇るバラを見ることができる。春と秋、年に2回の一般公開のほか、隣接する高井戸図書館の窓からも眺められ、好評を博している。

〈 現在の活動 〉

毎月バラの手入れを中心に、定期的に新聞を発行したり、一般公開の際に資料を作成したりと幅広く活動している。なお、地域・保護者の方々の組織「アンネのバラ栽培委員会」は「アンネのバラ・サポーターズ」という名称に変更し、生徒たちの委員会と連携して、バラの維持・管理を支援している。



生徒による「アンネのバラ委員会」と地域・保護者の方々による「アンネのバラ・サポーターズ」が協力して、季節ごとに必要なバラの手入れや広報活動などを行っている。